

世田谷村日記

石山修武

八月二四日

朝十時学科会議室。稲門建築会の件で相談。昼食をとって世田谷に戻る。帰り道に贈ってもらった竹山聖の「独身者の住まい」を読む。私のドラキュラの家その他のイージーリッスン版だ。千歳烏山到着と共に読み終わる。十六時九州より權藤夫妻来村。佐賀の子供のワークショップその他の報告等。

八月二六日

昨日は完全に休養した。朝九時地下ミーティング。守りを固めて前へ。開放系技術型住宅の現場が十月には五ヶ所発生する。聖徳寺現場、十勝現場を手固く進めてゆく。世田谷村市場の展開を何とかしたい。そろそろモノに関して連戦連敗状態を勝ち味のある戦場にしていかなくては。大きな遊具の頃目を付け加えよう。子供、女性に対応できるように。十一時彰国社田尻さん来世田谷村。少し年をとられたようだが、まだかくしゃくとされている。七一才だそうだ。昼のそうめんを御一緒に別れる。十四時大学野村と中国の件打合わせ。モノミーティング。丹羽の車椅子に装着できるカメラの三脚ができるとよいな。十九時過世田谷へ。世田谷村市場オペレーション。早めに寝る。

八月二七日

早朝四時三〇分起床。東の空がゆっくりと明るくなってくる。

こんなに早く起きてどうするんだと考えている。五時過まで本を読んだが眠くなったので又眠る。こんなでいいのかなあ。マア仕方ネエヤ。

テーブルクロスが鮮やかなよもぎ色に変わったので気分がよい。これ位の事で気持ちは動くものなのかと自分でもおかしい。生活用品をやる根拠はこれだと思う。大学へ十四時モノミーティング。丹羽の「車椅子に装着するカメラ三脚」は収穫であった。他は全く見るべきものなし。十五時野田夫妻鈴木夫妻来室。契約。むづかしい仕事をどんどん引受けているが担当者に余程の自覚をさせる必要がある。

八月二八日

今日は一日世田谷で各種エスキスの予定。開放系技術論の中心的性格は今ある方法とは別の径で、個別な生産システムの外にモデルとしての個別な生産方法を構えてみせる事かな。その構えは流通を、つまり情報の回路を生活者の側に引きつけようと試みる事から始まる。八時四〇分地下へ降りる。十二時までエスキス。大きいモノ程エスキスは楽だ。都市のスケールの絵も然り、同じ手で小さなモノの絵を描くのはむづかしい。十六時高橋工業社長、熊谷組佐々木所長来。少々打ち合わせ、宗柳でソバ、二人共九時半の東北新幹線で帰ると言うので、ソクサと別れる。経済の低迷は人間の気力までも薄くしてしまいかねぬ。それに対抗する論理を作ろうと言うのが実は開放系技術論なのだがなあ。

八月二九日

六時前起床。今二階の大テーブルに一人居る。ヒンヤリとした空気が室内を通り抜けて気持ち良い。いつの間にかこの少しばかり

大きな吹抜けの空間が体に馴じんできてきているのを感じている。月下美人ももう身の丈を超えるほど背丈をのばした。パキラの樹は来年には三階の天井まで届く程に成長するかも知れないし、カコラインジャスマミンはすでに天井から垂れ下るまでに生い茂っている。家内が起きてきて大テーブルを挟んで座り、一人でしゃべりまくっているが、そのおしゃべりは結構面白い。ある種の人生論になっている。どうやら朝四時半のラジオ放送を聞いているらしく、その番組「生き方死に方」の感想をしゃべっているらしい。しかし、家内の人の話の復元能力は凄いものがあるな。五年ほども昔の子供電話相談室の無着成恭と子供のやり取り。「僕、死ぬのが恐いんですけど」「大丈夫だよ。君生れてくる前恐かった。」「生まれて来る前、解らないから恐くなかった。」「だから大丈夫なんだア。死ぬって事は生まれて来る前に戻るんだから。」「そうなのかあ。解りました。アリガトウ。」

マ、こういう話とはもすればイヤ味な話になりがちなのだが、家内が復元するとイヤ味が消えて仲々見事なモノになる。才能だろう。月下美人がつぼみを持っていて、咲いたら誰かを呼んで食事しようかという話しになった。一夜、それも三、四時間しか咲かぬ花のようだから。空の青さが、いかにも晩夏のように良い。しかし、アツという間に雲も流れるな。私の母は八十三才そろそろ気力体力が弱ってきているようで心配だ。九時前地下に降りる。静かである。十一時迄エスキス。ゼロハウスプロジェクトの骨子ようやくまとまった。九月末にウェブサイトに発表できるだろう。十三時研究室。日経新聞カルティエ社インタビュー。聞き手が上手だったので面白くおしゃべりした。カルティエって戦車のキヤタピラのデザインからきてるらしいな。成程ネ。腕時計のバンド部分はまさにキヤタピラだね。ポルシェがやっぱりタイガー戦車

のデザインに手を染めた歴史を持つのと良く似ているな。十四時三〇分野村中国コンペ打合せ。幻庵主榎本基純氏次男榎本雄太君よりメールが入っていて、「名古屋ケッタフェスティバル」なるイベントに使いたいのて面白い駐輪スタンドをデザインせよとの事である。良く解らないがまあ榎本Jrの頼みなんだから、せねばならんだらう。いずれ自転車のデザインもやる事になるなコレワ。そうだよ、つい先日幻庵でイイ気になって自転車の事などしゃべってしまったツケが廻ってきたのである。しかし、自転車の世界も広大なんだろうな。